

ハロハロのインターンを終えて

安藤優希

1月から4月までの4か月間という短い期間でしたが、NPO ハロハロのマニラ支社インターンとして活動させていただき大変ありがとうございました。このインターンシップを通して、貴重な体験やここでしか学べないことなど経験することができ充実した留学生活にすることができたと感じています。ありがとうございました。これからこのインターンシップを通じて学んだことについて書いていきます。

まず、学んだことについてです。1点目にパヤタスやエラブのハンディクラフトトレーニングやスタディツアーを通して学んだことです。これらを通して、フィリピン全体としてではなく個人レベルで知ることができたと思います。具体的にどのように困っているのか、どのような生活をしてきているのか、またこのように訪れる日本人に対してどのように感じているかなど多くのことを知ることができました。また、ハンディクラフトトレーニングをしているお母さん方のことや、ハロハロのビジョンの実現のためにどのような活動をしているのかも知ることができ、これから自分自身がどのように貧困という問題に向き合っていくべきかなどを考えるきっかけにもなり、とても価値のある時間となりました。

次に学んだことの2つ目は、日本人文化祭の経験からです。この日本人文化祭では主にメール対応を行い、文化祭に参加する各団体にパンフレットや広報に必要な紹介文や写真を集め、編集を担当する人へ提出するということしました。このメールのやり取りなどを通して、最初は20団体以上と連絡を取り合わないといけないということで、正直少し嫌な仕事を引き受けてしまったと思いましたが、これからのハロハロの発展やハロハロがこれからまた関わるかもしれない団体であるということ意識し、メールの文面だけでもどれだけ誠実に連絡を取り合えるかを考えながら取り組むことができました。そこから、たかがメールだけどされどメールということで、文面の大切さや返信の速さなど、反面教師で学んだことも含め多くのことを学ぶことができました。この仕事は大変でしたが、経験でき非常に良かったと思っています。

次の3点目は、Calbee-URC と共同の取り組みのきっかけになることができた点です。マニラ日本人会盆踊り大会に参加させてもらったときに名刺を渡したのがきっかけにつながることができました。そこから共同での取り組みについての話し合いの場を直接設けてくれ、なんとか前向きに進めることができました。正直、話し合いの場を設けてくれた時に自分の対応が今後前向きに進むことができるのかどうかにかかっていると考えていたのがナーバスでしたが、うまく進めることができよかったです。できれば最後までこの取り組みに関わりたかったですが、このようなめったにできない経験をすることができとても良かったと思います。

最後に、NPO ハロハロのインターンシップをさせていただきありがとうございました。今後フィリピンやそのほかの地域の貧困という問題に対して私自身がどのように取り組むべきかという答えはまだ出ていませんが、このインターンシップで学んだこと経験したことを活かして自分の将来に役立てていきたいと思います。また機会があればよろしくお願い致します。

